

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の特徴	「要介護状態になっても地域とのつながりを絶やさない」「地域の中の施設」をコンセプトにしています。介護が必要になった人が家族や地域とのつながりを保ちながら、生活を送れるように「通い」「訪問」「泊まり」の3つのサービス形態を本人、家族の希望に合わせて柔軟に組み合わせ利用できます。「通い」「訪問」「泊まり」どのサービスを利用してもいつも顔なじみのスタッフがケアを行います。少人数登録制のため家庭的な雰囲気での利用者・スタッフと楽しく過ごすことができ認知症の方も不安なく過ごすことができます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護撰田屋	管理者	木村真人		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援C	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	2人	3人	3人	1人	0人	2人	0人	13人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 自己評価の確認	現在行っている改善計画を継続し、目標を達成できるように努める。	目標を達成できるように努めることが出来たところもあるが、出来ていないところもある。	会議に参加されなかった方にはどのようなようしているのか。自己評価に対する重要性を考えて取り組むべきである。	事業所自己評価について改善計画を継続し、目標を達成できるように努める。
B. 事業所のしつらえ・環境	小規模入口にある地域交流掲示板を活用し、季節や小規模の雰囲気を感じられるような内容に変更する。	季節に合った飾りや行事を行い雰囲気作りに努めた。	小規模の掲示板がわからない。サービス評価の前に改善策や計画についての説明を行い、評価していく。地域交流の掲示板はとても雰囲気が良いと思います。皆さん立ち止まって見ている。	小規模入口にある地域交流掲示板をより見やすく活用し、季節や小規模の雰囲気を感じられるような内容を継続していく。
C. 事業所と地域のかかわり	事業所の内容を広報誌などで地域にお知らせする。サポートセンター撰田屋が現在地域と関わっている取組を今後も継続する。地域での相談等あれば、運営推進会議でも報告する。	地域とのかかわりを大切に取り組んできた。	建物自体は認識されているが、内部にどんな事業所等があるか知られていない様子。いつ相談を受けているのかわからない。スタッフ参加しているのかわからない。	事業所の内容を広報誌などで情報の発信を継続していく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしをささえる取組み	回覧に小規模が介護相談の窓口になっている事を掲示する。また、地域からの相談事があれば対応に努める。	行事やイベントには出来るだけ参加してもらい、利用者と地域とのかかわりを継続できている。	地域の方から相談事があるのかわからない。利用者の近隣にも目を向けるようにする	地域のイベントや活動等に積極的に参加する。介護相談日（相談員出勤）をカレンダー等で掲示し、地域の方が気軽に相談できる環境を整える。

E. 運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議で議題に上がった内容はできるだけ迅速に対応する。 必要に応じて市の方を含めて検討していく。	検討する課題等がなかったが、上がれば検討していく。	検討出来る案には事例検討を行う	運営推進会議で議題に上がった内容はできるだけ迅速に対応し、地域と共に取り組んで行く。
F. 事業所の防災・災害対策	地域と事業所が協力し、防災・災害対策計画を考え、地域一帯となって取り組んでいく。	防災・災害対策に努め、地域と協力して取り組むことが出来た。	防災訓練に参加したことがないのでわからない。 防災計画や訓練をしたらセンター内などに掲示する。	防災・災害対策計画をもとに地域と事業所が一帯となって取り組み協力体制を継続していく。 訓練の際は家族にも連絡、報告する。